

ISSN 0368-9395

VOLUME 70 (*Suppl.*)·November 2004

THE JAPANESE JOURNAL OF HEALTH AND HUMAN ECOLOGY

民 族 衛 生

第70卷 付 録

平成16年11月

第69回 日本民族衛生学会総会講演集

日本民族衛生学会

THE JAPANESE SOCIETY OF HEALTH AND HUMAN ECOLOGY

民 族 衛 生

Jpn. J. Health Hum. Ecol.

タイ王国北部地区住民の性行動調査

A-04

○高木廣文¹，菊池美保¹，近藤麻理²

1 新潟大学医学部保健学科，2 兵庫県立看護大学

【目的】

タイ王国ではHIV感染予防として，1991年から「100%コンドーム・プログラム」を実施し，性産業従事者による感染予防には大きな効果をもたらした。しかし，性産業従事者であっても，特定個人間（夫婦，恋人，友人など）ではコンドームを使用しない傾向があることが指摘されている。パヤオ県は，タイ王国でも特にHIV/AIDS感染者，死亡者が多い地域である。今回，我々は一般住民のHIV/AIDSに関する意識や性行動について調査を行ったので，その結果について報告する。

【方法】

タイ王国パヤオ県のあるムバーンに登録されている18～60歳の363人（男171人，女191人）を対象とした。調査内容は，性，年齢など基本属性に関するもの5項目，HIV/AIDSの知識・認識に関するもの20項目，性行動に関するもの9項目，その他15項目の全49項目である。2003年8月20日～28日の9日間に，対象者宅を訪問し，在宅の場合に直接協力を依頼し質問紙を配布し，期間内に回収した。142人（39.1%）が在宅し，全員に対して調査票の配布，回収ができたが，1人は61歳であったため除外し，分析には141人（男59人，女81人，不明1人）のデータを用いた。本報告では，性行動に関する項目を分析に用いた。

【結果】

1. 基本属性： 平均年齢は男35.2歳（SD 11.7歳），女32.3歳（9.9歳），全体で33.5歳（10.8歳）であった。職業は，学生21.9%，農業19.9%，事務・従業員19.1%，商業・自営業14.2%，公務員10.6%などが主であった。婚姻状況は，独身32.6%，結婚56.7%，死別・離別7.1%，同棲2.8%であった。学歴は，未就学1.4%，小学校25.5%，中学校12.8%，高校22.0%，短大以上36.9%と比較的高学歴であった。
2. 性経験について： 性経験ありは男52人（89.7%），女58人（71.6%）で，この110人について以後解析した。初交年齢は，男13～25歳（平均17.9歳），女16～30歳（21.5歳）であった。初交時の相手は，男では妻が19.6%，恋人・友人が41.2%であったが，女では夫が83.6%と大部分を占めた（表1）。初交時のコンドームの使用割合は，男では15.7%，女では15.8%と差がなかった（表2）。年齢別では，女の20歳代での使用が50.0%と最も割合が高く，年齢が高いほど不使用の傾向があった（表6）。なお，10歳代では全くコンドームは使用されていなかった。
3. 日常での性行為： 性経験者数は，男では1人が45.5%と最も多く，平均4.1人（範囲1～28人）であった。女では，1人が92.6%，平均1.1人（1～3人）であった。性交時のコンドーム使用について，毎回使用は男7.7%，女10.5%であり，時々使用は男42.3%，女24.6%，不使用は男44.2%，女63.2%であった（表3）。コンドームの毎回使用は，20歳代の女が37.5%と最も多く，10歳代，40歳代以上の女では毎回使用するものはいなかった（表7）。コンドームの不使用の割合は，男では40歳代66.7%，50歳代75%であり，女では10歳代66.7%，30歳代以上は66.7%～70.6%であった。
4. 過去1年間の性経験： 過去1年間に，夫／妻，恋人などとの性行為を持ったのは，男44人，女42人であった。コンドーム使用について，毎回使用は男15.9%，女16.7%と差はなく，不使用は男47.7%，女54.8%と多かった（表4）。男では，毎回使用は10歳代0%，20歳代20%，30歳代23.1%，40歳代16.7%，50歳代0%（表8），不使用は10歳代0%，20歳代20%，30歳代46.2%，40歳代以上75%であった。女では，毎回使用は10歳代0%，20歳代37.5%，30歳代19.0%，40歳代以上0%であり（表8），不使用は，10歳代0%

%, 20歳代25%, 30歳代61.9%, 40歳代70%, 50歳代50%であった。

過去1年間に不特定者との性行為があったのは、男16人、女2人であった。コンドーム使用について、男では毎回使用が18.8%, 時々使用が62.5%, 不使用は18.8%であった(表5)。女では、20歳代の2人とも時々使用であった(表9)。男では、年齢別では毎回使用は0~33.3%であり、時々使用は年齢が高くなると減少した(表9)。30歳代まではコンドームの不使用は0%であるが、40歳代以上では不使用が60%であった。

【考 察】

HIV感染予防は性交時のコンドーム使用が不可欠であるが、本調査結果では、性交時に毎回使用する割合は極めて低かった。初交時や日常でのコンドーム使用は低く、特に40歳以上で男女ともに使用割合が低かった。HIV感染に対する危機感の欠如や、HIV/AIDS流行後の性教育を学校等で受ける機会がなかったことの影響かもしれない。この点は、20歳代の女性のコンドーム使用が比較的高いことと符合するだろう。しかし、10歳代でのコンドーム使用が低いことは、「100%コンドーム・プログラム」がうまく機能していないことを示すものとも考えられる。一方では、不特定者との性行為では、コンドームを全く使用しない割合は低いので、HIV感染の予防知識がないという訳ではなく、日常でのパートナーへの信頼からの不使用とも考えられる。今後は、正しい知識から実践に移るために必要な点は何かを、より明らかにするための研究が必要であろう。最後に、質問紙の翻訳、調査実施に協力していただいた元JICA AIDS IIプロジェクト秘書のKamonpan Inthoeng氏、新潟大学医学部保健学科の入江倫子氏、中田徴氏、および調査地区の方々に感謝いたします。

表1. 初交時の相手

	男(51)	女(55)
無回答	3(5.9)	2(3.6)
夫/妻	10(19.6)	46(83.6)
恋人・友人	21(41.2)	6(10.9)
上記以外	17(33.3)	1(1.8)

表2. 初交時のコンドーム使用

	男(51)	女(57)
使用	8(15.7)	9(15.8)
不使用	36(70.6)	40(70.2)
不明	7(13.7)	8(14.0)

表3. 性交時のコンドーム使用

	男(52)	女(57)
毎回使用	4(7.7)	6(10.5)
時々使用	22(42.3)	14(24.6)
不使用	23(44.2)	36(63.2)
不明	3(5.8)	1(1.8)

表4. 過去1年間での夫/妻、恋人などとの性行為時のコンドーム使用

	男(44)	女(42)
毎回使用	7(15.9)	7(16.7)
時々使用	15(34.1)	12(28.6)
不使用	21(47.7)	23(54.8)
不明	1(2.3)	0

表5. 過去1年間での不特定対象との性行為時のコンドーム使用

	男(16)	女(2)
毎回使用	3(18.8)	0
時々使用	10(62.5)	2(100.)
不使用	3(18.8)	0

表6. 初交時のコンドーム使用

	男/N(%)	女/N(%)
10代	0/4	0/3
20代	3/10(30.0)	4/8(50.0)
30代	3/14(21.4)	4/27(14.8)
40代	1/15(6.7)	1/16(6.3)
50代	1/7(14.3)	0/3
合計	8/50(16.0)	9/57(15.8)

表7. 性交時のコンドーム毎回使用

	男/N(%)	女/N(%)
10代	0/4	0/3
20代	2/10(20.0)	3/8(37.5)
30代	1/14(7.1)	3/26(11.5)
40代	1/15(6.7)	0/17
50代	0/8	0/3
合計	4/51(7.8)	6/57(10.5)

表8. 過去1年間での夫/妻、恋人などとの性行為でのコンドームの毎回使用

	男/N(%)	女/N(%)
10代	0/3	0/1
20代	2/10(20.0)	3/8(37.5)
30代	3/13(23.1)	4/21(19.0)
40代	2/12(16.7)	0/10
50代	0/4	0/2
合計	7/42(16.7)	7/42(16.7)

表9. 過去1年間での不特定者との性行為でのコンドーム使用

	男/N(%)		女/N(%)	
	毎回	時々	毎回	時々
10代	0/2	2/2(100.)		
20代	1/6(16.7)	5/6(83.3)	2/2(100.)	
30代	1/3(33.3)	2/3(66.7)		
40代	1/4(25.0)	1/4(25.0)		
50代	0/1	0/1		
合計	3/16(18.8)	10/16(62.5)	2/2(100.)	

タイ王国北部地区住民のHIV/AIDSに対する認識について

A-05

高木廣文¹, ○菊池美保¹, 近藤麻理²

1 新潟大学医学部保健学科, 2 兵庫県立看護大学

【目 的】

タイ王国の中でも、北部のパヤオ県はHIV/AIDS感染者、死亡者がとくに多い地域である。また、HIV/AIDS感染者、患者の一部は、自らがHIV/AIDSであることを公表して生活している。本研究では、そのような地域の中で、一般住民はHIV/AIDSに関して、どのような認識を持っているのかを調査したので報告する。

【方 法】

タイ王国パヤオ県のあるムバーンに登録されている18～60歳の363人（男171人，女191人）を対象とした。調査内容は、性、年齢など基本属性に関するもの5項目、HIV/AIDSの知識・認識に関するもの20項目、性行動に関するもの9項目、その他15項目の全49項目である。2003年8月20日～28日の9日間に、対象者宅を訪問し、在宅の場合に直接協力を依頼し質問紙を配布し、期間内に回収した。142人（39.1%）が在宅し、全員に対して調査票の配布、回収ができたが、1人は61歳であったため除外し、分析には141人（男59人，女81人，不明1人）のデータを用いた。本報告では、HIV/AIDSの知識・認識に関する項目を分析に用いた。

【結 果】

1. HIV/AIDSは身近な問題か： 「HIV/AIDSの問題は自分にとって身近な問題だと思いますか」という問への回答は、「とてもそう思う」が男の44.1%，女49.4%であった（表1）。「少しはそう思う」は男30.5%，女44.4%であり、逆に、「そうは思わない」は男15.3%，女3.7%であり、「全く思わない」は男10.2%，女2.5%と、男女ではその認識に有意差が認められた（ $p=0.013$ ）。年齢別では（表2），10歳代では「とてもそう思う」は男60%，女35.7%と、男で高率だが、20歳代～40歳代の男では50%と一定しているが、女の20歳代は66.7%と高率である。「そうは思わない」と「全くそう思わない」は、どの年齢群でも男で高い傾向があり、とくに50歳代の男では87.5%を占めていた。
2. 自己のHIV/AIDS感染へのリスク認識： 「あなたは自分がHIV/AIDSに感染するかもしれないと考えたことがありますか」という問への回答では、「よく考える」が、男15.3%，女6.2%と男で高率であった（表3）。一方では、「全く考えない」も男54.2%，女42.0%と男で高率であり、女は「たまに考える」が51.9%と最も多かった。このHIV/AIDS感染へのリスクの認識には、男女間に有意差が認められた（ $p=0.023$ ）。
3. 自己のHIV/AIDS感染へのリスク認識とHIV/AIDSは身近な問題かの関連： 感染へのリスク認識と身近な問題とする認識には、有意な関連が認められた（表4， $p=0.001$ ）。HIV/AIDSを身近な問題と「思わない」場合、自分がHIV/AIDSに感染すると「全く考えない」が80%であるが、HIV/AIDSを身近な問題と「とてもそう思う」場合、「全く考えない」は39.4%と半分程度の割合であった。
4. 周囲のHIV/AIDS感染者の存在の影響： HIV/AIDS感染へのリスク認識は、自分の周囲のHIV/AIDS感染者の存在と関連があった（表5， $p=0.015$ ）。家族や親戚にHIV/AIDS感染者がいる場合、自分がHIV/AIDSに感染するかもしれないと「全く考えない」は27.3%，友達がHIV/AIDSの場合には、同様に20%であるが、それ以外の場合には、自分がHIV/AIDSに感染するかもしれないと「全く考えない」は50%以上であった。

【考 察】

HIV/AIDSを身近な問題とする認識と自己のHIV/AIDS感染へのリスク認識には、男女間に有意差が認められた。一般に、男は女よりも自分のHIV/AIDS感染に対して楽観的で、パー

トナーを信頼する傾向が強く、自分やパートナーとリスクグループとは異なったグループだという認識から、自分には関係ないものと考える傾向があるものと思われる。

HIV/AIDSへの感染リスクの認識と周囲の感染者の存在に有意な関連が認められた。これは、実際にHIV/AIDS感染者と関わることが、HIV/AIDSの問題に対する認識に影響する要因であることを示唆するものと考えられる。本調査対象者には、実際にHIV/AIDS感染者が含まれており、対象者の周囲に感染者が少なからず存在するために、HIV/AIDSを身近な問題とする認識が比較的高くなったものと考えられる。このような認識が、実際の予防行動にどのように影響するのかが、今後の検討課題である。最後に、質問紙の翻訳、調査実施に協力していただいた元JICA AIDS IIプロジェクト秘書のKamonpan Inthoeng氏、新潟大学医学部保健学科の入江倫子氏、中田徴氏、および調査地区の方々に感謝いたします。

表1. 男女別によるHIV/AIDSの認識

	男(%)	女(%)
とてもそう思う	26(44.1)	40(49.4)
少しそう思う	18(30.5)	36(44.4)
そうは思わない	9(15.3)	3(3.7)
全くそう思わない	6(10.2)	2(2.5)
合 計	59(100.)	81(100.)

質問「HIV/AIDSの問題は自分にとって身近な問題だと思いますか」。
 $\chi^2=10.779$, $p=0.013$

表4. 自己のHIV/AIDS感染へのリスクの認識とHIV/AIDSを身近な問題とする認識との関連

	とても そう思う	少 し そう思う	思 わ ない	N
よく考える	13(19.7)	0	1(5.0)	14(9.9)
たまに考える	27(40.9)	30(54.5)	3(15.0)	60(42.6)
全く考えない	26(39.4)	25(45.5)	16(80.0)	7(47.5)
合 計	66(100.)	55(100.)	20(100.)	141(100.)

質問：横「HIV/AIDSの問題は自分にとって身近な問題だと思いますか」縦「あなたは自分がHIV/AIDSに感染するかもしれないと考えたことはありますか」。(注意)「そうは思わない」と「全くそう思わない」をまとめて「思わない」とした。
 $\chi^2=24.013$, $p=0.001$

表2. 年齢別によるHIV/AIDSを身近な問題とする認識

年 齢	と て も そ う 思 う	少 し そ う 思 う	そ う は 思 わ ない	全 く そ う 思 わ ない	N
18~19 男	6(60.0)	3(30.0)	1(10.0)	0	10
18~19 女	5(35.7)	9(64.3)	0	0	14
20~29 男	5(50.0)	3(30.0)	2(20.0)	0	10
20~29 女	12(66.7)	4(22.2)	1(5.6)	1(5.6)	18
30~39 男	7(50.0)	5(35.7)	1(7.1)	1(7.1)	14
30~39 女	11(40.7)	14(51.9)	2(7.4)	0	27
40~49 男	8(50.0)	5(31.3)	2(12.5)	1(6.3)	16
40~49 女	10(52.6)	8(42.1)	0	1(5.3)	19
50~59 男	0	1(12.5)	3(37.5)	4(50.0)	8
50~59 女	2(66.7)	1(33.3)	0	0	3

質問「AIDSの問題は自分にとって身近な問題だと思いますか」
 $\chi^2=23.501$, $p=0.024$

表3. 自己のHIV/AIDS感染へのリスクの認識

	男(%)	女(%)
よく考える	9(15.3)	5(6.2)
たまに考える	18(30.5)	42(51.9)
全く考えない	32(54.2)	34(42.0)
合 計	59(100.)	81(100.)

質問「あなたは自分がHIV/AIDSに感染するかもしれないと考えたことはありますか」。
 $\chi^2=7.532$, $p=0.023$

表5. 自己のHIV/AIDS感染へのリスクの認識と周囲のHIV/AIDSの存在との関連

	よ く 考 え る	た ま に 考 え る	全 く 考 え ない	合 計
家族/親戚	5(22.7)	11(50.0)	6(27.3)	22(100.)
友 達	3(30.0)	5(50.0)	2(20.0)	10(100.)
村の中	3(3.8)	32(40.5)	44(55.7)	79(100.)
不 明	3(10.0)	12(40.0)	15(50.0)	30(100.)
合 計	14(10.0)	60(42.6)	67(47.4)	141(100.)

質問：縦「あなたの周囲にHIV/AIDSの人はいますか」、横「あなたは自分がHIV/AIDSに感染するかもしれないと考えたことはありますか」。
 $\chi^2=15.861$, $p=0.015$